

荷風全集

第二十八卷

岩波書店

昭和四十年八月十日印刷

昭和四十年八月十四日發行

荷殿全集第二十八卷

定價六百圓

著者 永井壯吉

發行者 岩波雄二郎

發行所 株式會社 岩波書店
東京都千代田區神田一ツ橋二丁目三番地

目 次

對談・鼎談・座談	一
偏奇館雜談	三
松井千枝子との一問一答錄	五
新春懇談會	一四
好日鼎談	一七
荷風先生とストリップ	一八
荷風ないしよ話	二五
荷風思出草	二〇
映畫『女優ナナ』を語る	二八
獨身の教え	二〇〇

昔の女今の女……………二〇八

創作ノート・手帖・草稿……………二一九

創作ノート……………二二二

手帖……………二二五

草稿……………二八三

原稿断片……………二八四

シンフホニヤ、デル、アサクサ……………二九二

花のいろく……………二九四

裸体……………二九六

養子……………二九七

袖子……………三〇六

雑……………三二七

『耳無草』正誤原稿……………三二九

いく代勘定書	三二
荷風文庫第一集後書	三四
爲永春水屏書	三四
荷風全集プラン	三四
谷口宛領收証	三七
雑誌「スリル」裁判鑑定書	三七
『小説道楽』書入	三八
参 考 篇	三二
夜の女界	三三
『夜の女界』書入	四七
海の黄昏	四五
荷風小傳	五〇
「三田文學」抄	五〇
「文明」「花月」抄	五一

聞書……………五四一

漫言冗語(一)……………五四二

幽窗清話……………五四四

偏奇館漫談三……………五四六

補遺……………五四九

俳句……………五五一

和歌・狂歌・漢詩……………五五五

隨筆・評論……………五五六

江戸錦繪の時價と室内裝飾……………五五六

久米秀治君を悼む……………五五六

ノエル、ヌエット個展推薦文……………五六八

アンケート……………五六九

好きな土地……………五六九

文士と洋行……………五六九

目 次

序跋其他	………	五二
蜀山人草藥の後に書す	………	五二
斷片	………	五三
書簡	………	五四
珊瑚集校異	………	五五
後記	………	五九
索引		

對談 · 鼎談 · 座談

談雜館奇偏

聞く人 邦枝 完二

五月十五日。曇り日の午後、久方振りにて麻布市兵衛町の偏奇館に、永井荷風先生を訪ふ。壁間に故永井禾原翁の書、或は歌麿の浮世繪など程よくあしらひて、漢洋折衷の裝飾を施したる書齋は、如何にも落着心地よし。籐椅子に倚り、紫烟を隔てつつ先生と語る。

(邦枝生)

邦枝 近頃どこか芝居を御覽でしたか。

荷風 帝劇の『人肉の市』と、『夏の日戀』とを見ました。

邦枝 『人肉の市』は、痛し痒しと云つた風なもので、割合に人氣がないやうぢやありませんか。

荷風 僕は初めから大して期待もしてゐなかつたので、別に失望もしませんし、感激もしませんでした。

唯あれを見てゐて考へたことは、あの芝居が松居君の腕で、立派に昔の二番目物に脚色されてゐたことです。詰り序幕の樂園俱樂部とかいふのが吉原で、二幕目の初めが長崎の大名屋敷、次が同じく古い寺院の前とでもいふところでせうか。——序幕の幕開きは仲の町張見世の體と見立てて、アルマといふ女は奥州仙臺あたりから賣られて來たばかりの突出し女郎。いやに操が固いので、日夜樓主の慾藏(コルク)や、やりてのおかやに責められてゐる。そこへ大旗本の若殿(ガルウイツク)が悪友に誘はれて來て登樓する。アルマに惚れて、救ひ出してやらうといふので町奉行へ知らせる。それがまた與力(エルピー)の口から洩れて、アルマは長崎あたりへ賣られる——二幕目。長崎に賣られた女は、うまく傳手を求めて、その藩主(マホメツト第五世)の姫君(ナイメー内親王)の侍女になる。そのうちに女は藩主の眼に留つて、お部屋様にしやうといふことにな

る。折も折とて、吉原で見初められた旗本の若殿は、蘭學研究のために長崎へ下つて、この大名のもとへ時候の挨拶に來る。女はそれを知つて戀しき彌増り、容易に藩主の命に應じない。房子の扮してゐる他のお妾が、同じ奥州の生れなのでアルマに同情した結果、日頃藩主の信任深き占者箕齋（ムーリツタ）にその身の上を占はせると稱して、ひそかにアルマを逃してやる——二幕目第二場。旗本の若殿は、アルマがその日までこの大名のもとにゐたといふことを知つて驚いたが、行衛不明になつたと聞いて更に驚き、御典醫竹庵（ガレー博士）と共に、同じ占者を訪ねてアルマの行衛を訊ねる。と、偶然そこでアルマに會ふ。が、好事魔多しといふわけか、大勢の岡ツ引と共にひそかにアルマの後をつけて來た與力は、旗本の若殿に切支丹宗といふ濡衣を着せて、アルマを引張つて行かうとすると、若殿と與力との間に格闘が起り、若殿は與力を斬つた上で、ア

ルマと共に刺違へて殞れる。——まづかう考へたら、鬚物としてイタに掛けて見ても、かなり興味があるでせう。

邦枝　なる程、僕はまだ見てゐませんが、あの芝居は却つてさうした方が、面白かつたかも知れませんか。しかし、先生は不思議なことをお考へですね。

荷風　近頃の芝居は、何か考へながら見てゐないと、叱られますからね。

邦枝　まさかさうでもないでせう。——久米君の悲喜劇の方は如何でした。

荷風　脚本はなかなか面白いと思ひましたよ。

邦枝　舞臺の方は？

荷風　つまらないことはありませんが、どういふものか、帝劇の人がやると、くすぐりが多くなるので閉口です。私の見たのは二日目でしたから、みんな随分慎んでやつてゐたやうですが、あれが五日目になり十日目になつて、慣れて來たら、原作とはかなり

距離の遠いものになつて仕舞ふでせう。尤もあゝい

ふ脚本は、這入りいゝ代りに、かなり六ヶ敷いものですからね。

邦枝 もう帝劇の女優諸君も、色氣で賣る時代は過ぎたやうですね。

荷風 さうです。これからはほんたうの腕の時代でせう。

大正十二年七月「劇壇春秋」

松井千枝子との一問一答録

永井 松井さんとは、此うして逢ふのは初めてだが、あなたは有樂座にいらしたことがあるでせう？

松井 えゝ。

永井 有樂座の座附女優だつたんですか？

松井 いゝえ、研究座に居りました。アマチュア連中と一緒にやりましたので學校なんかにも内證で出ましてね、校長先生に叱られました。

永井 その後あなたが松竹へ入つた時、松竹の本社へあなたが來てるのを、新しい女優が來てるからつて、新免君と一緒に覗いたことがある。

松井 まあ、さうですか。

永井 昔のことは、私はよく覚えてゐないんだが、生田葵山君がよく知つてゐますよ。何時か、生田君に連れられて銀座のカフェ、タイガーへ來てゐました

ね？

松井 え、生田先生にお目にかゝつて、タイガーつてとこへ初めて参りました。

永井 大變なところでせう。随分あそこで色んな人に逢ひますよ。

松井 所長さんが言つていらつしやいましたよ、先生はタイガーへ始終行つていらつしやるんですつてね？

永井 所長さんだつてさうですよ。

松井 で、所長さんからお言傳を頼まりましたの、タイガーばかり行つていらつしやらないで、たまには活動も見て下さいつて、先生に言つて呉れつて。

永井 どうも話はいけませんね——一々喋つてゐることを書かれてゐると思ふと、話が猥褻にわたれませんかからね。

松井 私も、いつかも「蒲田女優氣焰會」と云ふんで大變なことすつかり書かれてしまつて困りました

わ。でも、もうよござんすわ、覺悟しています。

先生は活動をごらんになることが、ございますか？

永井 歌舞伎に出た蒲田の寫眞を、一寸見た位で、ちつとも見てゐないんだ。三田さん(英兒)の出たのがあるでしょ、あれを高橋君(左團次)等と一緒に見ようと歌舞伎へ行つたら、丁度その日からその寫眞が出なくなつたんで引つ返しちまつたし、何うも殆んど見てゐないんです。

尤も、錦輝館時代には見ましたよ、日本へ活動つてものが來たての時分にね。此の間、田中總一郎君と巖谷三一君が誘ひに來て呉れて、見ないと後れるからつて、葵館へ行きました、その時は『最後の人』とか云ふんです。

淺草の活動寫眞も、四十五年位だつたかに一遍見たつきりですよ。

松井 歌舞伎でごらんになつたのは？

永井 それは『九官鳥』つての、そのさうだな、あれでも半分以上見ましたかね……。

松井 お嫌ひなわけぢやないんでしょ？

永井 嫌ひつてわけでもないが、一人でポツ／＼切符を買つて見に行かれませんか、芝居と違つて馴染はなしね、馬鹿／＼しくて——尤も、女の連れがあると思うんですよ。

松井 タイガーの方とぢやいけません？

永井 銀座のまん中を、タイガーの人とは、ちよつと入れませんか。それが出来たら随分見てゐる筈なんですよ。

松井 先生は映畫のストーリーをお書きにならうと云ふやうな氣持はおありになりませんか。

永井 活動の筋立は、われ／＼には出来ませんね、活動では、十年前の話でも二十年前の話でも何か形に出して見せなくちやならないでせう、小説ばかり書いてゐる者には一寸むづかしい。

松井 『九官鳥』を御覽になつて、何うお考へでしたか。

永井 まあ『九官鳥』一つ見て、日本物の全部を批評するのも亂暴でせうが、あれを見て感じたのは、色つぼくないと云ふことです。之は檢閲がやかましいからですかね、兎に角色つぼくはない、きはどいとこがちつともありませんね、まあ例へてみれば、お湯へ入るととか、襟首を見せて髪を結ふところとか、さう云ふうまく逃げた色つぼいところがない。何でもないとところで男に、つまりよろしくない考へを起させるやうなところ、そんなところうまいところありませんね。尤も他の寫眞には、あるかも知れないが。

松井 他には、ちつとも御覽になつてゐませんか？

永井 もう一つ、松竹本社の試験するやうな所で、柳さく子を見ましたつけ。

松井さん、あなたのその髪は、やつぱり撮影所の

髪結さんが結つたんですか。

松井 えゝ、撮影で、コテをあてた髪でしたのを、大急ぎで今、此れに結び直して貰つて來ましたの。

永井 撮影所の髪結さんは、何んな髪でも結ふ人ですね？

松井 えゝ、西洋髪でも日本髪でも。

永井 今度は一つ、あなたの方のお話を聞きたいですね。

松井 でも、うつかり喋ると又、皆さんに笑はれたり、叱られたりしますから私恐くて……。

永井 あなたは、大變幸福な家庭を作つていらつしやるさうだが……。

松井 私は生れつき家庭的でないんで困つてゐるんです。もう少し落着きが無くちや、栗島さんみたいな落着きが無くちやと思ふんですよ。家庭に落着くと云ふやうな氣持——私は、それが無いんですの。でも、先生、仕事してゐる間は、さう云ふ氣持は無く

てもいゝんぢやないでせうか。

永井 まあ、四十位になつてからでいゝでせうね。

松井 さうだとすれば、私なんかトクな生れつきですわ。

永井 あなたの男性觀つて云つたやうなことを聞きたいですね。

松井 今も、電車の中で「女性」に出てゐる『きもの』と云ふのを讀んで、男の方の氣持つてこんなものかとつく／＼思ひ^な乍ら參りましたわ。

永井 讀んでるませんが、何んなことが書いてあるんです？

松井 女つて損ですね、色々のことを考へると、ほんとに嫌んなつちまいますわ。フアンの中なんかに、随分ひどいことばかり言ふ人がありましてね、つまり夫と云ふやうなものがある事は、フアンの氣に入ないらしいですね。

永井 然し、それは何うだかな、私等の若い時、丁度

娘義太夫が流行つた頃は小土佐だの綾之助なんか大變な人氣で、私なんかも綾之助の俤をワイ／＼言つて押したもんですよ。綾之助は立派に亭主があることは知つてゐても、別段そんな事は構はなかつたんだな。

松井 そりやさうかも知れませんが……。

永井 だから、今だつて亭主があつたつて、それが大した障りにはならないでせう。いゝ御亭主を持つて、人氣も盛で、結構ぢやありませんか。

松井 でも、私家庭のことと仕事のこととは別にしたいんですの、だから家庭のことはあんまり喋りたくありません。私の氣持ぢや、家庭を持つたからつてそれに浸り切る氣持はないんですもの。仕事してゐることの方に浸つてゐますから。

永井 すると、家庭のことは、小間使に任せつきりと云ふわけ？

松井 まあ、さうです。私もさう意識せずに、馴れつ

こで色々致しますけれど。

永井 そんならいゝぢやありませんか、何時迄も戀人と思つて——つまり世帯の意識でなく、男が羽織を脱ぐと、ひよつとそれを疊む、その調子なら理想的ぢやありませんか。

松井 えゝ、まあ吞氣ですわ、さういふことは。

永井 一生の中に一遍は、満足がなくなちやいけませんよ、あと淋しくなつてからでも、人を恨まないで済みます。

松井 ぢや、先生はその満足があたりだつたんですね？

永井 いや、私のことぢやない。

松井 いゝえ、先生はあつたんですわ。さうでなきや、そんなこと仰言れせんわ。私には、そんな満足なんか到底ありませんわ。

永井 當時は不満足ですよ、誰だつて、もう満足だとをさまつてゐる人はない。そりや、然し、後になつ